

**■音楽科の目標**

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

**■音楽科の特質に応じた見方・考え方**

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること。

**■高知県が目指す授業づくり****○音楽科における「学びを変える」授業づくりとは**

表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動を展開していくことです。そのためには、児童の興味・関心を引き出し、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする活動を充実させることが大切です。

**○音楽科における「学びをつなげる」授業づくりとは**

表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより、音楽科で育成する資質・能力が徐々に身に付いていくようにすることです。そのためには、児童の発達段階や学習の系統性を踏まえながら、多様な音楽活動を幅広く体験させ、音楽的な見方・考え方を働かせた学習を積み重ねることが大切です。

**○音楽科における「学びを高める」授業づくりとは**

学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫し、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ることです。そのためには、見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問などを工夫したり、気付いたことや感じ取ったことなどについて他者と共有する活動を適切に位置付けたりすることが重要です。

**■音楽科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容****○〔共通事項〕の取扱い**

各学年の内容に示した〔共通事項〕は表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものであり、表現及び鑑賞の各活動と併せて指導することが重要です。各領域や分野の事項と〔共通事項〕で示されているア及びイとの関連を図り、年間を通じて継続的に取り扱うように工夫します。

**○言語活動の充実**

音楽科の学習において、音や音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い、友達の感じ方や考え方等に共感しながら、自分の感じ方等を深めていくためには、言葉によるコミュニケーションや言葉で表したことを音楽活動によって確認するといった往還が大切です。

**○低学年における他教科等や幼児教育との関連**

低学年の児童は、幼児期と同じような発達の特性を持っており、具体的な活動を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み替えながら学んでいます。こうした特性を生かして、より効果的に資質・能力を育むことができるよう、生活科などの他教科等の（単元）題材に関連する音楽科の題材について、取り扱う時期を合わせるなどの教科等間の連携を図った指導の工夫が重要です。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

楽器の組み合わせや音の重なりによる音の響きに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組むとともに、生活の中にある様々な音に親しむ態度。

知識及び技能

イ(ア)、ウ(ア) 共通事項(1)イ  
イ 次の(ア)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くこと。  
(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴。

思考力、判断力、表現力等

ア(ア) 共通事項(1)ア  
ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)をできるようにすること。  
(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)の技能を身に付けること。  
(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能。

《関連する教材例》

- 音のひびきや組み合わせを楽しむ(教育出版社 音楽のおくりもの3)
- 音のとくちょうを生かして音楽をつくる(教育芸術社 小学生の音楽3)

《既習の内容との関連》 第1・2学年 A表現（3）音楽づくり

○設定した条件（声や身の回りの様々な音を即興的に選んだりつなげたりする際の約束事のこと）に基づいてその場で音を選んだりつなげたりして表現する活動。  
(例) 体のいろいろな部分を手で打って出せる音を使い、友達と違う音を選んで4拍で即興的にリレーのようにつないで表現させたり、リズムや旋律を模倣する際に、音で会話をするように表現を工夫させたりする活動など。

《言語活動の充実》

音の組み合わせや音の重ね方によってそれらが生み出すよさや面白さなど、聴き取ったことと聞き取ったことを言葉で伝え合いながら楽器の組み合わせや重ね方を考える。



言葉で伝え合ったことや考えた組み合わせや重ね方について実際に音を出しながら確かめ合ったり、考えた工夫等について確認したり修正したりする。

言語活動

音楽活動

《個々の子供の状況に応じた配慮》

- ◇音の高さや長さに関する言葉やオノマトペを掲示する。
- ◇4拍分のリズムを強弱や打ち方が分かるように音や図で可視化したカードを使い、その中から選択させる。

《他教科等との関連》

【生活科】第1・2学年 身近にある物を使って遊ぶ活動

資質・能力を身に付けるための音楽科の学習活動例

音を組み合わせたり重ねたりして音楽をつくる活動

- 音の響きの変化に興味・関心をもちながら、奏法を工夫する力。
- 材質の違いや奏法の工夫によって変化する音の響きの違いを聴き取る力。

1. 木・皮・金属のそれぞれの材質が持つ音の響きが、様々な奏法によって変化する面白さを見つける。

- 楽器の組み合わせや音の重なりの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせながら工夫して音楽をつくる力。

2. 各自で見つけた音を使いグループで組み合わせたり、音を重ねたりしながら工夫して音楽をつくる。

- 楽器の組み合わせや音の重ね方の工夫、奏法の工夫から生まれるよさや面白さに気付く力。

3. 各グループの発表を聴き合い、よさや面白さを見つける。

●各自で見つけた音を使いグループで組み合わせたり、音を重ねたりしながら工夫して音楽をつくる活動。

(例)・4拍×( )回で音の響き(音の高さ・長さ・音色・重なりなど)を工夫し、組み合わせや重ね方を工夫してつなげる。

- 記譜ソフトを活用して考えたアイデアを打ち込み、楽器の組み合わせ方や重ね方を様々に入れ替えて試しながら、どのような変化や違いがあるのかを確かめる。
- 自分たちが創った作品の録音や録画を聴きながら修正を重ねる。



T: どのように楽器を組み合わせたり、重ねたりしたら楽器による会話が面白くなるかな？



C1: 私のカスタネット(木)の音とあなたのトライアングル(金属)の音を組み合わせると、どんな感じがするかな。

C2: 材質が違うもので交互に鳴らすと、高い声の人と低い声の人で会話しているみたいだ。次は同じリズムで繰り返して、まるで山びこのように聞こえるようにしてみようよ！



C3: トライアングルが「チーンチーン」と伸びている間にカスタネットが短い音で「タンタン」と重なると、二つ同時に違う話をしているみたいに聞こえないかな。記譜ソフトに打ち込んで試してみよう。さっきよりもっと楽器を増やしたり音を重ねたりしてにぎやかなパーティでの会話にしたいな。

組み合わせや重なりを考える際のワークシート(例)

見方・考え方を働かせる子供の姿の例

「これらの音をこのように組み合わせたり重ねたりすると面白くなる」という考えをもち、奏法を工夫して、音の高さ、長さ、音色、強弱などの変化や、楽器の組み合わせや音の重なりが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら発想を広げている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

音楽に対する感性を働かせるための音との出会いの工夫  
鳴らした音が何の楽器の音なのかを当てるゲームを行い、想像していた楽器の音とは違う音の響きが出ていることに興味をもたせ、奏法の工夫で音の響きを操作できるように気付かせる。

音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせるための工夫  
材質の組み合わせの工夫によって生まれる雰囲気の違いに気付かせたり、奏法の工夫によって音の響きがどのように変化したのかを明らかにさせたりしながら、材質や音色の響きの特徴を生かした組み合わせや重ね方、リズムや強弱などを工夫させていく。

捉えたことを自己のイメージや感情と関連付けるための工夫  
楽器の組み合わせにより、「呼びかけとこたえ」になっている部分を会話の場面と関連させて考えられるよう発問や問いかけを工夫し、発想を広げさせる。

主な資質・能力の系統

幼児期  
簡単なリズム楽器を使っていろいろな音を出して遊んだりしてその心地よさを味わう。

思・判・表  
知・技

第1及び第2学年  
音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。【ア(ア)】  
◆声や身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くこと。【イ(ア)】  
◆発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。【ウ(ア)】

本題材

第4学年  
即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。【ア(ア)】  
◆いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くこと。【イ(ア)】  
◆発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。【ウ(ア)】

第5及び第6学年  
即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。【ア(ア)】  
◆いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解すること。【イ(ア)】  
◆発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。【ウ(ア)】

中学校第1学年  
創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。【ア】  
◆音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。【イ(ア)】  
◆創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。【ウ(ア)】

中学校第2学年及び第3学年  
創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。【ア】  
◆音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。【イ(ア)】  
◆創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。【ウ(ア)】